

手芸倶楽部新聞

2014年
5月13日号
第10号



新メニュー紹介

手芸倶楽部では作業がマンネリにならない様、新しいプログラムを順次用意しています。こちらは新プログラム「貝の口」ポーチです。居室洗面所に置き軟膏やチューブ系の物を入れるのにぴったりのポーチです。

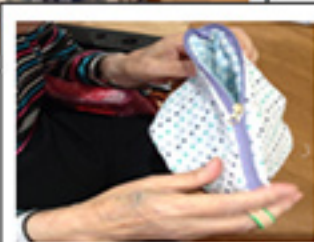


伊藤機能訓練指導員より
皆さんに取り組んで頂く作業内容も増えてきました。参加者ひとりひとりの好みや能力に合った作業に取り組めるよう工夫しています。

次回は五月二十九日(木)、地域交流室にて十五時より開催予定です。
ご家族もご参加いただけます。

手芸のコツ

フラスナー付きで別布の底、キルト芯を入れ、裏地もつけた本格的なポーチは、仕上がるご利用者様の自信に繋がります。現在二名の方が作り上げました。毎日コツコツ作業することがあると、生活に張り合いも生まれます。お二人は、現在二つ目のポーチを制作中です。どなたかにプレゼントするのだとか……。



ちまたでは、若いママの間で作るのが流行っているのだとか。小さく作ってカバンの中に入れておませ、アクセサリを入れる時にも便利です。六枚のパーツを作り、二枚ずつ張り合わせ、三個のパーツにし、それを縫い合わせる作りです。中にはクリアファイルを切ったものを入れ、ばねのようにしています。ご利用者は作りながら「貝の口」ポーチの仕組みを理解していただきます。個人差はありますが、概ねできあがるプログラムですので、気軽にチャレンジして頂ければうれしいです。



第十回の手芸倶楽部は総勢二十名集まり、賑やかにスタートしました。今回の造花は、季節を先取りした蓮の花。生花では貴重過ぎて入手不可能な蓮の大輪の花を中心に据え、個性的なアレンジを楽しまれました。また、裁縫の参加者は、「貝の口」ポーチ制作という新たなプログラムに取り組んで頂きました。六つのパーツを作り、それを繋げるという高度な手芸ですが、すいすいとパーツを作り上げる腕前はお見事！次回の倶楽部で仕上げて頂く予定です。



編集後記：倶楽部活動は月に二回ですが、縫い物に関しては、四丁目三番地のフロアにて、随時ミニ倶楽部を開催しています。「今日は縫い物できるかな」と縫い物見守り職員が出動するたびに、きらきらとした目で楽しみにしてくださるのです。何も用事がなければつい昼寝したくなるのが人情ですが「縫い物できる」と思うと「起きていようかな」と臥床時間を減らす効果も出ています。トイレ頻回な方も裁縫に集中するとびたっと行かなくなるのです。興味のある方は伊藤 OTまでお問い合わせください。一緒にチクチクしましょ(平戸)